

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071100091		
法人名	有限会社ふるさと		
事業所名	有限会社ふるさと		
所在地	群馬県安中市鷲宮1956-1		
自己評価作成日	令和3年11月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和3年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ターミナルケアを実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者及び職員は地域の方が多く、利用前から関係があるなかで、家族から直接相談を受けて利用につないでいる。代表が、利用者の健康観察を重視しながら、協力医・職員との連携の中で、終末期ケアの提供ができるようにして看取りが実践されており、理念に掲げている「地域の方がたとの交流を図りながら安心して健康に暮らせるよう支援させていただきます」の実現に努めている。日々のケアにおいては、利用者の笑顔を引き出すことを視点にコミュニケーションを図り、利用者を肯定することや、庭先のベンチに出て外気浴をしたり、道路に行き交う近隣者と会釈を交わしたりして、閉塞感のない暮らしの提供に努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	内容を理解してもらい、理念を数か所かかげ共有している。 会議時にも確認している。	事業所は長年にわたっての実績を基に、開設当初の理念(地域での施設の在り方、役割など)に照らして、地域での役割を話し合いながら、地域との交流に努めるなど、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は、近所の方々とあいさつをしている。 町内の回覧を回してもらっている。	住宅街に立地した環境を活かして、近隣者の理解を得ながら、職員が積極的に地域の方とのふれあいを心がけ、日常に会釈や声かけをしてもらう環境づくりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内の様子、介護保険に関する質問をいただき、お話をさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市介護保険課の方、地域住民の方、利用者様ご家族の方の出席をお願いし、2ヶ月に1回年6回開催、報告を行い、意見要望に沿える様取り組んでいる。	コロナ禍のため、会議の開催は中止しており、報告書を市へ提出している。今後、開催にあたっては、家族の参加にむけて働きかけるとともに、欠席した方への会議内容を伝える取り組みにも努力して、参加メンバーからの意見を活かしたい考えがある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、市のサービス調整会議に出席し、市の担当者、民生委員等より意見・アドバイスをいただいている。	コロナ禍のため、メールで感染対策のアドバイスを受けた。また、市や県のホームページから最新情報を確認して、取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員理解し、取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの指針を定めており、指針に沿って年2回の研修をしている。そうしたなか、「スピーチロック」「スイーツロック」等の研修を行い、利用者への声かけに気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修に出席して学んでいる。 職員はこの件について注意を払って、日常業務についている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に理解を得られるように説明し、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、自由に意見・苦情を提出していただけるようにしている。	コロナ禍、面会制限をしており、直接、家族の要望を聞くことができなかったが、面会できない家族へ利用者の様子を写真で送っていたことに、写真の処分に困るという家族の意見をうけて、電話での報告を主とする報告に変えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務において、常に受けている。	管理者が日勤業務をしているので、職員の様子を確認しながら、悩んでいるケアなどには直接アドバイスをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護技術の勉強、職員全員が研修を受けられるようにする。 職員間の交流を図る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受ける機会を確保している。 管理者基礎研修等。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、史のサービス調整会議に出席し、他の施設の職員との意見交流に努めて、又は勉強して、レベルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様から情報収集及び、利用者様からの訴えるをじっくり聞く習慣を、職員全員が持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の面会時や、電話をする等、いろいろな機会に会話や報告をするよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活されている時の利用者様を観察し、相談を受けた時には、十分に納得されるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族様からの情報、本人からの訴えをよく聞くことを基本とし、今までの生活歴を知っておく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とできる限り連絡を取り合っ、本人とご家族様にとってベストな支援をするよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時に、ご家族様・知人の面会をしていただけるようお願いしている。また、外出を希望した時は、応えるようにしている。	コロナ禍で事業所内にいる時間が長く、面会など制限した環境下にあるため、職員との馴染みの関係活かし、積極的に声かけを行うようにしている。その関わりは、笑顔につながればとの考えから行われ、利用者の笑顔が増えることで、馴染み関係が深くなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	信頼関係が保たれるよう、利用者同士うまく交流できる様に常に気配りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対処された後も、相談等は常時受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望、意向には可能な限り気配りをしている。 本人の希望にこたえている。	職員全体で、笑顔を引き出すケアを目指し、その関係支援においては、目線を同じくしている。非言語的コミュニケーションも含めてコミュニケーションから、笑顔のときの思い、意向を把握して、希望に応えられるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に情報を聞き取りしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人に合わせてたりハビリ・レクリエーション、外出等、常に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、職員からの意見を取り入れて作る。	職員同士は、利用者のニーズについて、申し送りや会議で検討する仕組みで、その実践をしているが、モニタリングなどの記録が整っておらず、ケアマネジャーが作成するケアプランに反映する仕組みがないため、計画目標の共有が図れていない。	一人ひとりが抱えるニーズごとに支援の目標を決定し、目標解決につながる介護支援を検討し、実践の記録が介護計画に反映されることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録、日々の気づきや変化等が生じる場合は、全職員との連絡を申し送りノートを通じ、共有している。 介護計画にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者の方の希望やニーズの把握に努めた対応をしている。 受診の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1回、相談員と民生委員の方々と協力し、情報等を共有している。 来訪は現在休止中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	夜間の連絡も対応できるようになっている。 夜間の利用者様の体調の変化に十分対応できる。	入居後は、利用者家族の同意を得て近くにある協力医への変更が行われ、毎月1回の受診及び必要な療養の支援がなされている。また、必要な相談、法人内の看護師との連絡なども行われ、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の身体状況に即座に対応、訪問看護の方に連絡相談、健康管理の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の主治医・看護師等に、直接又は電話で情報を交換し実行している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と本人と話し合い、文書等で説明し支援に取り組んでいる。 記録を取り、きちんと文書を作成し、ご家族様・ご本人様に著名・捺印をいただいている。	代表が看護師であり、日々の観察がおこなわれて、職員の報告を受けて必要な医療への相談連携を図り、指示助言を得ながら終末期を希望すればターミナルケアの実践をしている。長年の経験を重ね、最期まで事業所での生活を支援できる取り組みが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを定期的に学んでいる。 研修会議等に参加して学び、普通救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練(昼間、夜間想定)地域住民の方に協力をお願いし、参加していただく。 日勤者・夜勤者も参加し、消防署職員より消火器の使い方の指導を実施、消火訓練も行っている。	ハザードマップにあわせて、マニュアルを作成している。コロナ過で、消防関係者呼んで訓練の実施ができなかったが、避難場所までの移動介助の訓練を実行している。今後、マニュアルに基づいた実践を身につける必要性を感じている。	災害時の対応を、職員で共通理解のもと実践できるような取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録等に記入するときは、個人名を出さずに記入している。 職員間の会話の中でも、個人名は出さずに会話している。	その人らしい生活を支えるための、人柄や生活習慣について、丁寧に情報を収集している。そうしたなか、大事にされてきたことはどんなことなのかを知り、人格を損ねないケアの提供ができるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人からの希望や想いを第一に尊重している。 自己決定の実現に常に心掛けて、介護をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人からの希望聞き出している。 入居中心という考えを持って応えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	車椅子使用と足元が不安定な方が多いため、不定期に外部から美容師を招いて、ホームで理美容サービスを受けて居る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	歩行が可能な利用者様は、食後の下げ善ができています。 利用者様からメニュー希望を取っている。 ホールテーブルを使って、電気プレートでホットケーキ等を作って楽しめる。	日常的なコミュニケーションから、食べたいものの把握をして、業者から届く食材に加えて、利用者の希望に添うメニューを取り入れている。食事量がしっかりとれるように、時間調整を行ったり、睡眠状態にあわせた時間で食事を提供したり、利用者の状態にあわせて小分けして提供したりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護日誌に、食事の摂取状況を記録している。 水分量は記録していないが、1日1,200～1,500mlを確保できるように、ほうじ茶、コーヒー、ココア、梅茶等、希望に添うように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯使用の方は、毎食後洗浄と口腔ケアをしている。 毎食後、歯磨きをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員同士、同じ対応ができる様に、話を絶えず取り合って、排泄の誘導と支援を行っている。	利用者の多くが重度の方が多く、おむつを利用している。そのため、頻回な体位変更や清潔補助に努めている。支援においては、羞恥心に配慮して、職員同士が同じ対応ができるように、日々申し送りで共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員個別に排泄パターンを理解し、便秘対応をしている。 下剤使用の方がいる。 毎日、水分補給を十分にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本週2回とし、汚染時には随時対応している。 本人希望にも対応。体調に合わせた入浴を実施している。	事業所では、入浴を週2回としている。利用者は重度化にあるため、自分で入浴できない利用者が多く、2人での介助が必要な状態にある。入浴が困難な場合には清拭を行い、褥瘡予防が図れている。しょうぶなどを浴槽に浮かべ、香りをたのしむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の電気の消灯等は、個人の好みで差があるので、個別の要望に応え、安心して眠れるようにしている。 夜間の廃会社や大声を出す利用者があるので、夜勤者が見守り・対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の服薬内容の記録ファイルを作り、いつでもだれでも必要な時に情報を理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	介護度に差があるため、個別にできることを本人の役割にさせた頂いている。 洗濯物のたたみ、食後の片づけ、カラオケ、塗り絵等、一人一人の希望・特技を取り入れて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じ、個別に職員とともに外出している。 ご家族様のご協力を得ながら、自由に外出している。(感染予防のため一時中止している)	コロナ禍のため、外出はできていないが、事業所の庭には自由に出入りができ、天気が良ければ庭のベンチに出て外気浴を楽しむことができ、職員は利用者が自由に過ごせるよう距離をとって見守りをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の使い方を理解できない方は、支援できない。 買い物希望のある方は、ご家族様に依頼することもある。 不可能内容者様には見守り・一部介助をさせていただきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	重度の方は、自分の名前も書けない。 会話も不可能な方がいる。 面会に来られるように、ご家族様に依頼することもある。 不可能な利用者様には見守り・一部介助をさせていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールのテレビの音量には常に気配りをしている。 居心地よく過ごせるよう、工夫している。	リビングでは、テレビの音が苦になる方には場所の変更をするなど、居心地よく過ごせるようにしている。コロナ禍のなか、運動不足にならないように踏み台をおいて運動ができるようにしたり、目の不自由な方には自分で移動や歩行ができるようにスペースの確保をするなど環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間において、一人になれる場所はない。 ホールは食堂として、テーブルを設置する広さである。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望する写真を飾ったり、利用者様の作品を飾って楽しめる。	本人にわかりやすいような配置にするなかで、馴染みの品物が置かれている。居室で運動できるようにしている方もいる。利用者の重度化に伴い、ベッドを中央に配置して、職員が2人介助できるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール・浴室・トイレには手すりが付いている。 必要に応じて、見守り・一部介助をさせていただきます。		